**外来種駆除の取り組み**

外来種は、限られた資源をめぐって在来種と激しく競争することにより、生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。伊勢志摩国立公園では、外来植物が最も大きな課題となっています。レンジャーとビジターセンターのスタッフは、外来植物を根こそぎ取り除き、横山の里山の生態系を守るために常に活動しています。パークボランティアもこの活動に参加しています。

外来種の駆除は、大変な労力を要する仕事です。集めた植物は、生育可能な種子や根が別の場所で成長するのを防ぐため、すべて適切に処理しなければなりません。

横山で特に問題になっている外来植物のひとつは、特徴的なオレンジ色の花を咲かせる頑健な園芸品種、**ヒメヒオウギズイセン**です。ヒメヒオウギズイセンは、ニュージーランドからカリフォルニアまで、太平洋全域で侵略的な雑草として認識されています。日陰でも生育できるため、横山天空カフェテラスの下に生えているのが見つかることもあります。

**オオフサモ**などの外来水生植物もまた、国立公園の沼や湿地にとって問題です。水生植物は特に喫緊の脅威です。これらの植物が水面を覆い尽くしてしまうと、カエルなどの動物の繁殖が妨げられる可能性があります。

伊勢志摩国立公園でよく見られる別の外来種に、**オオキンケイギク**があります。ヒマワリの仲間であるこの植物は、当初観賞用として日本に持ち込まれましたが、その後、在来種の生態系を脅かす存在として認識されるようになりました。オオキンケイギクは、５月に花を咲かせ種をまき散らし始める前に駆除する必要があります。